

「ラジオと戦争」の著者が語る放送人の報国

「新たな戦前」と評される日本。一方で、権力に忖度し、自主規制がはびこる報道が批判され、今や報道の自由度ランキングは世界 180 か国中 70 位 (2024 年) と低迷している今、改めて戦前の戦争と言論抑圧の時代の NHK の「報国」を振り返る意味は決して小さくはない。著者の大森淳郎さんは NHK のディレクターとして数々の秀逸な番組を制作された方で、その長い放送現場での経験を通じて感じてこられた現在の NHK の課題、メディアの危機についても話していただく予定です。



12 月 21 日 (土) 13:30~15:30 サンフォルテ 307・308
参加費 1000 円 (高校生以下無料)



【講師：大森淳郎さん】

1957 年埼玉県生まれ。1982 年 NHK 入局。初任地は富山放送局。主に ETV 特集を手掛ける。2016 年に放送現場を退き、NHK 放送文化研究所に勤務。2022 年退職。著書に『BC 級戦犯 獄窓からの声』（日本放送出版協会、2009 年）、『ホットスポット ネットワークでつくる放射能汚染地図』（講談社、2012 年）、『ラジオと戦争』（NHK 出版、2023 年）。